

資料①

別紙様式(学校評価報告書)

平成28年度 学校評価報告書

平成29年2月14日
宮城県石巻高等学校

校長 小松 敦 印

1 本年度の重点目標

(1)生徒・保護者への経済的・心的復興支援及び学校教育の質の向上を図る。
(2)学校安全の充実を図る。
(3)授業の充実及び授業力の向上並びに課外講習等の効果的な運営を図る。
(4)進路目標達成に向けた全校を挙げての組織的な取組の展開を図る。
(5)諸活動を通じ、自主性・社会性及び地域・社会貢献姿勢の育成を図る。
(6)学校情報の積極的な発信により保護者・地域との協力・連携を図る。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 教育課程の研究に努め、よりよい教育課程の編成を図る。	B	概ね初期の目標に達しているが、教育課程の効果的な運用については長期的な視点と臨機の対応が必要である。	A	A
	② 生徒の進路目標、興味関心に即した効果的な学習指導計画・指導方法を研究し、学力向上を図る。	C	教科によって授業改善の取組は多様であり、全体として体制が確立しているとはいえない。	A	A
	③ 他の分掌等と連携を密にし、調和のとれた教育活動を円滑に運営する	B	今年は7月中は授業を実施したが、授業時数の確保という点よりも授業の質の面での課題を優先すべきである。	B	B
学校関係者評価者による意見	○学年に応じた学習指導が行われていた。 ○教員間に資質の格差が見られる。 ○教員間に不平、不満が内在していないか。				
生徒指導	① 責任を自覚して諸規定を守り、よりよい高校生活を送る気概に満ちた生徒の育成に努める。	B	送迎や自転車マナーについて規範意識が本人・保護者ともに希薄であった。部活動は95、3%で積極的に活動していた。	B	B
	② 自分で考えて判断し行動できる、主体的で自立した生徒の育成に努める。	B	服装面でおおむね良好であるが、女子のスカート丈など防犯上心配な様子が見られる。生徒会を中心に各種委員会が活発に行われてきている。	B	B
	③ 友人と協力して事をなすことのできる、自主性と社会性を備えた生徒の育成に努める。	B	LHRでボランティア活動に参加するなど、社会貢献活動の機会をつくることが出来た。一方で、LHRのクラス別活動の内容を精査する必要がある。	B	A
学校関係者評価委員会による意見	○生徒の自主性を大切にし重んじる教育が好ましい。 ○教員の規範意識の向上をお願いしたい。				
進路指導	① 生徒の将来を見据え、生徒個々の能力と適性を活かす進路の実現を目指す。	C	他の部署との連携には、なかなか難しいところもあった。進路指導室の利用者は例年に比べ多かった。校内研修は新課程入試総括と教育・入試改革への対応をテーマに行った。	C	B
	② 生徒の学力把握とその向上を図る。	C	講習や、希望者模試、学習合宿の参加者は例年に比べ少なかった。進路行事は、長く続けているものもあり、より効果的なものにするために内容ややり方を見直す必要を感じた。各種情報データをもっと有効に使いたかった。	B	B
	③ 受験の多様化や大学入試制度の変化に速やかに対応する。	B	各種研修会や先進校視察などで得た情報を職員会議等で報告し共有化に努めた。進運の発行は必要な時に行い、HPなどで進路行事の様子を紹介した。	B	B
学校関係者評価者による意見	○進路指導のための助言・指導を積極的に行う。 ○生徒個々に対応した進路指導を行う。 ○先進校の情報の共有化を図る。				

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
震災復興・地域との連携	① 心のケアの充実・保健活動の充実・学校環境の整備を図る	B	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席・集団不適応傾向生徒が多く学業不振を来すことから、当該生徒については、定期考査前に学年会などでケース会的に情報共有し、担任・学年とともに教科担当からも有効な助言指導を行い、本人の心的負担を軽減し前向きに学習に取り組めるよう支援した。LHR等で清掃活動を行う取り組みなども見られたが、自発的な環境美化意識を育てるためには、ある程度の初期指導や適切な指示が必要だが、放課後活動の多忙化もあり、清掃が徹底しない点もあった。 ・支援を要する生徒が必ずしもカウンセリングに来談しない現状を踏まえ、担任・教科担当・部顧問などを介して本人に有益な助言を提供し、助力を仰ぐ行動を勧める形で、教育相談の活用を図った。 ・保健室を核に、外部機関と連携し、悩みを抱える生徒・保護者に多角的・継続的な支援を行った。 	B	A
	② 防災・防火避難体制を確立し、学校安全の充実に努める。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルに沿った避難を行うことができたが、さらなるマニュアルの整備、充実が望まれる。また、関係諸団体との連携・協力の在り方、生徒・保護者の具体的な動きについても細部を詰める必要がある。 	B	B
	③ 開かれた学校、地域との連携、情報の共有を図る。P T A活動、教育後援会を通じて、保護者との連携を図る。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・総会、各学年協議会、学年協議会委員懇談会は、役員をはじめ、保護者の協力で、滞りなく実施することができた。また、P T A合唱、会報の編集・発行、各種講演会、各専門部委員会など一連の活動においてもしっかりと参加、協力ができた。HPの円滑な更新を図る。 	B	B
学校関係者評価者による意見	○地域、学校、行政の連携が大切である。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 授業の充実及び授業力の向上並びに課外講習等の効果的な運営を図る。授業力の向上を図り効果的な学習指導計画・指導方法を実践し、学力向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科として、授業に対する自己評価を的確に行い、改善のための工夫・研究・研修を適宜実施する。 ・家庭学習時間については、その量の確保とともに質の向上を期する。学年や教科の連携を密にして、生徒の学習意欲の向上を喚起していく。
② 自覚と責任に基づいた学校生活を送り、諸活動を通じて自主性・社会性及び地域・社会貢献姿勢の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・そのつど声がけをするなどして、気概に満ちた生徒の育成にこれまで以上に努める。 ・マナーアップ講座を企画するなど、機会を見付け取り組んでいきたい。 ・クラスごとのLHRの内容が生徒の自主性と社会性を育成出来るものになるよう指導していく。
③ 進路目標達成に向けた全校を挙げての組織的な取組の展開を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確にし、他の部署との連携をこちらから積極的にはかる。 ・模試や講習、学習合宿は再度目的を明確にし、学年や教科の協力も得ながら生徒に働きかけを行い、効果が生徒の目に見える形になるように工夫する。 ・進路行事を通して、思考力や判断力、表現力や他者との協働性などを豊にできるように改善する。また、次年度はFineの使い方の講習会を行いデータの活用の方策を共有する。 ・各種研修会や先進校視察に積極的に参加し、情報の共有を図る。 ・進運は3年間を通してつながりをもたせることができるように改善する。 ・進路指導室はさらに使いやすいものにするために様々な提案を行っていく。 ・校内研修は今後の大学入試改革に向けて必要な内容を充実させる。
③ 学校安全の充実と心の支援の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・防災委員会との連携で、防災マニュアルの一層の整備を図る。石巻市や地域住民との連携、避難所運営の在り方、災害時の生徒・保護者の動向の明確化をはかる。特に、津波が予想される際の引き渡しルールなどを具体的に明示する。 ・困難を抱えていても、自助行動がとれぬ生徒が増えてきており、自己の課題を成長の契機にするための具体的な方策を奨励していく必要がある。